今回唯一、重要文化的景観への答申となった「菅浦」。長浜市では初の選定となります。

このたびの答申を受け、重要文化的景観という仕組みを作った専門家で『長浜市文化的景観保存活用委員会』委員長の金田章裕さん、『菅浦「惣村」の会』会長の島田均さん、菅浦自治会長の須原伸久さんにそれぞれの立場や視点から思いを語っていただきました。

## 「菅浦」は信じられないくらいすばらしいところです

京都大学名誉教授・元人間文化研究機構長
長浜市文化的景観保存活用委員会委員長
金田　章裕　さん

### 重要文化的景観とは

ユネスコの世界文化遺産に「文化的景観」という基準が追加され、国のほうでもこれを文化財として評価する動きがありました。

「文化的景観」とは、「土地の風土や生活、生業と一体となった景観」のことです。元来、人が生活していると、その地域の生活や生業が反映された景観が現れます。たとえば屋根には瓦葺、茅葺、葦葺など地域にある材料を使い住居が作られてきたこともこの一つです。

「文化的景観」は、住んでいる人にとっては当たり前のものなので、その価値を見つけないと消滅する可能性が高い。この中でも特に重要なものを文化庁が「重要文化的景観」として選定することで、文化財としての価値を見出し、維持するための一つのきっかけにしようというものです。

### 選ばれた菅浦

菅浦には歴史家の間では大変有名な重要文化財「菅浦文書」があります。これは、中世の暮らしが詳しく記載されている貴重なものです。

実際に菅浦を訪ねると、一歩足を踏み入れた瞬間、「菅浦文書」から感じる中世の香りがただよっているんですね。「四足門」に迎えられると左手には「須賀神社」、集落内に入れば「石垣」の上に立ち並ぶ民家。菅浦の集落が醸し出すこの雰囲気は中世以来の名残を色濃くとどめています。また、祭礼を始め、伝統行事もよく維持され、環境を多角的に活用してきた生活と生業のあり方も貴重です。

これは中世のままの生活をしているということではありません。文化的景観とは時代が流れ、人の生活や生業が変わるとともに変化していくものでもあります。菅浦には、先にあげた中世の要素を大切にしながら現在まで生活と生業が続いてきています。今回の答申はこの菅浦がずっとあり続けてほしいという評価を受けたということです。

奥琵琶湖パークウェイから見た菅浦

## 当たり前の景色がこんなに価値あるものだったなんて

『菅浦「惣村」の会』会長
長浜市文化的景観保存活用委員会委員
島田　均　さん

### 登録への道のり

平成23年から選定に向けて動き出し、3年間にわたり、金田委員長を始め各先生方に調査していただきました。

私は調査に同行し、自治会の皆さんからいろいろな話を伺ってきました。子どもの頃から見てきた「菅浦」なのに、知らないことがたくさんあって、調査が進む中で、新しい発見がたくさんありました。

当初は、「四足門」などの維持管理のため「重要文化的景観」選定を目標に取組みましたが、調査が進むうちに私自身、地元「菅浦」の魅力を改めて認識しなおしました。

### 再発見した菅浦の魅力

湖岸沿いの石垣は、台風が来る度に破損するので、先人たちがその都度手直ししてきたものだそうです。身近にあった資料館の展示物が国の重要文化財に匹敵する年代のものであることには驚きましたね。

また、菅浦は昔から何かに特化した地域ではないんですね。先人が営んできた生活の歴史をたどると、桑から始まり、油実、林業、漁業、ヤンマー家庭内工場などいろいろなことを生業とし生計を立てたそうです。

今後は自治会の中に、住民が主体となり継承する組織『菅浦「惣村」の会』を立ち上げ、重要文化的景観の保全継承に努めながら、地域住民の生活環境を向上させることで、菅浦の貴重な財産を後世に残したいと思います。

惣の焼印

## 菅浦を活性化したい、同時に住民の生活を守っていきたい

菅浦自治会長
長浜市文化的景観保存活用委員会委員
須原　伸久　さん

### 地元の思い

地元の人にはいろいろな思いがあると思います。60戸余りの小さな集落で高齢化が進み、小学生が一人もいない限界集落です。若い人が少ないので、「四足門」や「須賀神社」など、何かにつけ維持管理が大変です。今回の選定を機に、菅浦を訪れる人が少しでも増え、集落の活性化につながることが、住民の望みになっていると思います。

### 今後の受入態勢

見学者が増えることは喜ばしいことですが、住民に迷惑がかかることは避けたいです。一番心配しているのは、どれくらいの人たちがお見えになるのか想像がつかないことです。

見ず知らずの人が個人の敷地に立ち入り、住民の生活が脅かされないように、対策を練っています。立ち入れる区域と、立ち入れない区域がわかるマップの作成や、集落内には駐車場がほとんどないためバスの活用や車の通行を規制する案内看板を設置するなどいろいろ考えています。また、昔と今を対比しながら村を巡れるパンフレットなども作りたいですね。その他にもゆくゆくはボランティアガイドを雇って訪れた人を案内してもらうなど、受入れに向けては自治会や『菅浦「惣村」の会』でも思案中で徐々に準備を進めていきたいです。

国の文化審議会は、菅浦の景観について「中世以来の強固な共同体によって維持されてきた文化的景観で、『菅浦文書』等により、その在り方を歴史的に示すことができる稀有な事例」だとしています。

菅浦の人々は、村落の成立以来、誇り高い自立の精神を受け継いできました。永い歴史的な風土と文化的背景をもちながら、社会の変動を敏感に読み取り、時代に応じた暮らし、生業を築き、順応し、その形を変えつつも独特の風景を造りだし今に伝えています。

今回、重要文化的景観選定の答申が得られましたが、これは昔ながらの生活を強いるものではなく、観光地化することでもありません。菅浦の生活や生業を今後も守りながら、その魅力をより多くの人に理解してもらい、良い形で後世につなぐきっかけとすることです。

本市でもみられる過疎化や少子高齢化という社会的問題に柔軟に対応するためには、地域での支えあいや自立するという概念が重要なものとなってきます。菅浦での生活や生業の歴史、智慧や工夫からは、古くてそれでいて新しいまちづくりが見え隠れします。